

「広報しながわ」平成 19（2007）年9月 1 日号より転載
（イラスト：池原昭治）



戸越六丁目二十一番に、「子育て地蔵」という石のお地藏様を祀ったお堂があります。昭和初期に道路が広がる前には、このお地藏様は今の位置より少し南にあり、「首なし地蔵」と呼ばれていました。そのように呼ばれるようになったのは、首の大きさが体の大きさと合っていないことに関係があり、このような言い伝えが残されています。

江戸時代から明治時代にかけて、このお地藏様は「願かけ地蔵」として評判を呼び、願いをかける人がお地藏様の首を畑のあぜに転がしたり、ときには胴体も倒し、願いがかなったときに元通りにするという、変わった習わしがありました。「おや、だれかが願いをかけているようだよ」「本当だ、お地藏様の首が落ちている。願かけしているんだね」。畑の中に首が転がっているのを見た村人たちがうわさをしていると、ある日、お地藏様の首が元に戻っています。「お地藏様が元通りになっている。願いがかなったんだね」「今回は早く願いがかなって、よかった、よかった」と、村人たちは願かけの成就を喜びました。

ところが、なかなか願かけがかなわなかったのか、お地藏様の首がいつまでたっても転がったままで、ある日とうとう首が見つからなくなってしまいました。これには村人たちも困り果てて、「首がないんじゃ、願かけしたくてもできないねえ」「どこにいったしまったんだろう」と、心を痛めていました。

大正時代の終わりごろになって、お地藏様の熱心な信者だった日黒に住む植木職人が、「このままでは、お地藏様がかわいそうだ」とほかの首をつけました。

その後、願かけのために首を外す習わしはなくなり、今では、子育てと子どもの病気を治すご利益があるということで「子育て地蔵」の名で慕われています。